ニュージーランドの飲食サービス、7〜9月期の販売数量が1.9%増

Stats NZによると、名目売上高は2.7%増加し、価格上昇だけでなく需要の拡大も成長に寄与した

2026年11月23日（月）



ニュージーランドの飲食サービス部門は7〜9月期に売上高を伸ばし、価格変動の影響を調整した後も活動の拡大が確認された。

Stats NZは11月23日（月）、季節調整済みの飲食サービス販売数量が、7〜9月期に前期（4〜6月期）比で1.9%増加したと発表した。現行価格を反映する名目売上高は、同じ期間に2.7%増加した。

同機関の数量指標は、価格変動の影響を取り除き、実質的な経済活動の変化を示すものだ。この基準では、同部門の売上高は4,798万NZドル増加した。現行価格ベースでは、増加額は1億1,315万NZドルだった。名目成長率と実質成長率の差は0.8ポイントで、売上増加の一部が消費の実質的な拡大ではなく価格上昇によるものだったことを示している。

この数値はStats NZの発表資料として公表され、The National Tribuneが掲載した。対象は7〜9月期で、季節調整済みのデータだ。つまり、定期的な暦上の影響を取り除いて平滑化し、四半期ごとの比較を明確にしている。

Stats NZによると、数量推計は2010年9月期の価格に基づくニュージーランドドルで示されている。この方法により、インフレなどによる価格変動ではなく、販売された商品・サービスの量の変化を把握できる。一方、名目値は現行のニュージーランドドルで算出され、当該四半期に顧客が実際に支払った金額を反映する。

データは、レストラン、カフェ、バーなどの飲食事業者にとって、4〜6月期に続く改善を示している。実質売上高の増加は、メニュー価格の上昇だけでは説明できない需要の拡大を示唆する。一方、名目売上高の伸びがより大きかったことから、価格設定も全体の売上増加に寄与したことが分かる。

宿泊部門も増加を記録した。同じ発表資料によると、7〜9月期の宿泊サービスの名目売上高は4〜6月期比で3.4%増加し、増加額は約4,900万NZドルだった。The National Tribuneが掲載した発表資料には、宿泊部門の比較可能な販売数量の数値は示されていない。

総じて、発表資料が対象とするホスピタリティ市場の主要2部門はいずれも7〜9月期に伸びた。飲食サービスは実質・名目の両面で増加し、宿泊部門も請求売上高が堅調に伸びた。事業者にとってこの違いは重要だ。名目成長には価格上昇が反映される一方、数量の伸びは顧客が実質的により多く購入しているかを判断する、より明確な指標となる。